梅雨空の下、紫色の紫陽花の美しい季節となりました。御無沙汰しておりますが、ご健勝にてご活躍のことと存じます。

この度、拙著『アジア力の世紀』（岩波新書）が刊行されましたので、お送りいたします。本の帯だけ見ますと胡散臭い本を連想される向きもあるかもしれません。しかし一読いただければお分かりになりますが、本書は、台頭するアジアの世紀の中で日本がどう生き抜いていくのか、アジアとの共生の道を検証し実証しつつ明らかにした、実に真面目な啓蒙書です。

ただ、多忙なビジネスマンでも読み進めるよう、随所にわかりやすいエピソードを入れ、図表やコラムを挿入するなど、工夫を凝らしています。

帝国アメリカは、確実に終焉の時を刻み続けています。代わって中国やインド、アセアンなど新興アジアが台頭し成長し、「アジア力の世紀」が登場しています。そうした世紀の潮の変わり目を日本はいかに生きていくべきか。アジア共生の政策と戦略を明らかにしています。

その上で、尖閣を巡る冷え切った日中関係や閉塞した日本外交を打開し、日本経済再興の道を提示し、アジア共生のシナリオを描き上げています。

新書は、これで四冊目になります。最初が、同じ岩波から『アメリカ 黄昏の帝国』（９４年）、次に筑摩から『敗戦の逆説』（９９年）と『東アジア共同体をどうつくるか』（０７年）、そして本書です。

激動する世紀転換期の中でまだまだ書き伝えたいことがあります。その最新の作品が本書です。ポスト・アメリカの世紀の中で、日本が、アジア共生の道をどう切り拓いていくのか、同時代人として、ぜひ「書評」などを通じて本書を広く一般の方々に紹介していただく機会をおつくりいただけるなら、著者としてこれにすぎる幸せはありません。なお、校正見落としがございましたので追記いたします。

日頃の御無沙汰を赦しつつ、発刊の御挨拶までにて。

進藤 榮一 拝

二〇一三年六月、梅雨の晴れ間の筑波山麓にて

追記

・85頁1行目、4937・3万トン、2行目、4178・3万トン、

188頁12行目、3・7兆円、に各訂正下さい。